

なは女性センター講座2022



# 沖縄はなぜ 離婚率が高いのか？ ～戦後沖縄女性史をひも解く～

明治時代以来、沖縄の離婚率は全国的に高い数値を示してきました。そして1985(昭和60)年以降は、全国1位を独走しています。

そもそも、沖縄に「嫁入り」という言葉がないのはなぜでしょうか？「離婚に寛容な沖縄社会」はどのように形成されていったのか興味深く感じます。

敗戦後の衣食住は「アメリカ世」のもとで新しい文化を築いてきましたが、明治以降の家父長制社会の影響は、男系継承を基本とする「トートメー問題」を含め、「伝統文化」のごとく残り続けています。

今回の講座では、とりわけ1957年の新民法施行以降の社会環境の変化と、家庭におけるジェンダーロールが女性たちの意識の変革にどう影響を及ぼしたのか、離婚率の高さの背景について、戦後沖縄女性史をひも解きながら受講者と一緒に考えます。

日時 **1月28日(土)** 午後**2時～4時**

みやぎ はるみ

講師:宮城 晴美さん (沖縄女性史家)

会場:なは女性センター 第2学習室

対象者:関心のある方

定員:36人(事前申込先着順)

\*市在住・在勤・在学の方は手話通訳が利用できます。

1月20日(金)までにお申し込みください。

なお、一時保育は当面の間、休止いたします。

●講師プロフィール

1949年、座間味村に生まれる。沖縄の月刊誌の記者、編集者を経て、フリーライターに。『座間味村史』(全3巻)をまとめたあと、那覇市職員になって『那覇女性史』(前近代・近代・戦後編)を発行。その後、那覇市歴史資料室に異動し、『那覇市史』の編集に携わる。

2010年3月那覇市歴史博物館を定年退職し、沖縄大学、琉球大学、沖縄国際大学で非常勤講師を10年勤める。

1994年より、新沖縄県史編集委員会委員を務め、現在副会長。女性史部会長として『沖縄県史 女性史』(沖縄県教育委員会)を2016年刊行。

著書『母の遺したもの—沖縄・座間味島「集団自決」の新しい証言』(高文研 2000年)は、2001年度沖縄タイムス出版文化賞を受賞。2008年には新証言を受けて加筆・修正した新版を発行。



講座のお申込みは、QRコードからでもできます。

なは女性センターを利用される皆さまへご協力をお願い

「なは女性センターにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って、ご利用いただきます。

体調のすぐれない方は、ご利用をお控えください。マスク着用、検温、手指消毒のご協力をお願いします。  
今後の状況により、変更する場合があります。最新の情報は市ホームページでご確認ください。



## ジェンダー平等な社会へ、「バグ」を共有・解決したい

第16期・那覇市男女共同参画会議の委員7人の皆さまをご紹介しますインタビュー企画。第7回は、モバイルプリンスこと島袋コウさん（スマートフォンアドバイザー）です。

### 島袋コウ／モバイルプリンスさん (スマートフォンアドバイザー)

#### 【プロフィール】

高校在学中からお笑い芸人として活動を始め、2007年より携帯電話ショップで働く。軽快な話術とモバイル製品の知識を活かし、スマートフォンやインターネット情報を分かりやすく伝える「モバイルプリンス」として2014年に独立。2021年11月から那覇市男女共同参画会議委員。1987年沖縄市生まれ。著書に「しくじりから学ぶ13歳からのスマホルール」。



▲トレードマークの王冠と赤いマントでインタビューに答えてくれたモバイルプリンスさんは11月、なは市民協働プラザ

#### ★-ご自身の活動やお仕事についてお聞かせください。

スマートフォンやインターネット(以下スマホ、ネット)の使い方を教える講師や、新聞やラジオなどで関連する話題を発信しています。「モバイルプリンス」の名は以前、「ハンカチ王子」や「ハニカミ王子」が流行ったときに、「自分で『王子』を名乗ったら面白そう」と思い、使い始めました。王冠を被って小学校などに講演に行くと、子どもたちが喜んでくれます。いつまで王子でいるか問題はありますが…(笑)。

#### ★-以前は沖縄県警「サイバー防犯PR大使」としても活動されていました。

子どものスマホ依存など諸課題ある中で、特に大人が子どもを手なずける「グルーミング」を懸念しています。グルーミングとは性的搾取などを狙う大人が、ネット上で出会った子どもに優しい言葉で寄り添い、自分を信頼させた後にコントロール下に置く手口です。子どもは「知らない人に会っちゃいけない」と頭で分かっている、家や地域に居場所がないと引っ張られます。子どもの貧困問題とも密接につながる難しい課題です。

#### ★-ジェンダー問題への発信もされています。

##### きっかけは？

30代に入ってから、友人たちの話題や悩みの方向性が男女で変わったと感じました。とりわけ女性の友だちが、出産や家事・育児と仕事との両立で悩む姿を見て、目に見えないジェンダー・ギャップを身近に感じました。それが原体験の一つです。だからと言って「分かること」と「できること」は違います。私は不平等を受け取る側ではない男性なので、まだ気づいていない不平等もあると思います。

#### ★-ネットでは声を上げるマイノリティが

##### 叩かれている印象があります。

社会問題に声を上げる当事者へのバッシングや冷笑する態度が、ネット上では多く見られます。時期によって“バッシングの最前線”となるマイノリティは移り変わりますが、最近では「フェミ叩き(フェミニズム叩き)」が激しかったですね。10月に実業家のひろゆき氏が辺野古の看板を揶揄してからは「沖縄叩き」も激しくなりました。そうしたこともあり最近では、さまざまな差別の共通点について考えています。差別に対する指摘は、すぐには相手に響かなくても、点と点がつながり、それが線となり、いつしか面になることで、多様な見方ができるようになると思います。今は諦めずに一人一人が点を打ち続けることが大事だと思います。長く続けていくためにも、私はユーモアも大切にしたいです。

#### ★-「人種差別や障がい者差別を批判する人でも、女性差別はする」と指摘されていました。

ジェンダー平等について発信していると、男性から「男は得しないんだから、今のままでよくない？」と信じられないことを言われることがあります。構造的な女性差別がなくなると、「家事や育児を今より分担しなくちゃいけない」「職場で役職を取られる」など、男性にとっては「(自由や立場を)奪われる感覚」があるのでしょうか。私は差別や不公平は、ゲームの世界でいう「バグ=プログラムやシステムのエラー」だと思います。例えば、ゲーム上で特定のキャラクターや武器が強すぎるとゲーム展開が面白くないので、通常はそのバグを修正します。でも、中には「バグを利用して勝ち続けたい」と現状維持を望む人もいます。私はゲームも社会も、バグを修正して、公正公平なルールで楽しみたいです。

#### ★-任期中に「取り組みたい」「実現したい！」と思われるテーマは？

那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録制度の情報発信、啓発についてもっと取り組まないといけないですね。ジェンダー平等な社会づくりに向け、女性やセクシュアルマイノリティ当事者の生きづらさや差別など、多くの人と協力しているんな視点で「バグ」を発見・共有しながら、解決していきたいです。

# ジェンダーあれこれ☆まわし読み新聞

新聞を読みながら、ジェンダーについて語り合う講座を企画しました。

琉球新報社の関戸塩さんに、新聞の効率的な読み方を教わりながら、少人数のグループで「まわし読み新聞」を体験します。

ジェンダー平等、男女共同参画社会、性の多様性の尊重など…

大テーマは「ジェンダー」。皆さんが選ぶ記事や切り口、ご意見は自由です。

多様な意見やモノの見方に触れることで、視野や世界を広げませんか？



▲講師の関戸 塩さん

日時：1月16日(月) 午後7時～8時30分

せきど しお

講師：関戸 塩さん（琉球新報社プロモーショングループ長）

会場：なは女性センター 第2学習室

対象者：関心のある方

定員：20人（事前申込先着順）

持ち物：新聞1部（なるべく当日発行のもの）

\*市在住・在勤・在学の方は手話通訳が利用できます。1月6日(金)17時までにお申し込みください。なお、一時保育は当面の間、休止いたします。

## 「まわし読み新聞」とは…

集まった人がそれぞれ気になる新聞記事を選び、意見を交わしながら壁新聞を作るワークショップです。

大阪のコモンズ・デザイナー陸奥賢さんが考案した、新聞をコミュニケーションツールとする「メディア遊び」です。



講座のお申込みは、右記のQRコードからでもできます。



## ●講師プロフィール

琉球新報社地域読者局プロモーショングループ グループ長。2001年に入社後、事業局、販売局、編集局社会部那覇市担当、NIE推進室副部長、読者事業局販売第一部部長などを経て、2021年5月から現職。2017年4月から琉球大学非常勤講師も務めた。県立開邦高校と浦添中学校でPTA副会長、浦添市PTA連合会会長を歴任。琉球大学法文学部卒。東京都出身。特技は落語。

## 講座を終えて

講座名：「殴る・蹴るだけがDVじゃない！」～ガスライティング(心理的虐待)を考える～

開催日：2022年10月29日(土) 午後2時～4時 参加者：16人

講師：嘉手納 美音さん(ソーシャルワーカー)

「ガスライティング」という言葉と新しい概念を、本講座で獲得しました。ガスライティングとは、心理的、精神的虐待の形態の一つで、言葉や行動によって相手を心理操作し、行動や判断能力に自信が持てない状況をつくることです。ドメスティック・バイオレンスの精神的虐待と重複するものが多く、そうする人のことを「ガスライター」と呼びます。親密な関係だけでなく、親子、きょうだい、職場、友人関係、政治の場でも起こり得ます。

講座では、ガスライティングの例やガスライティング被害者への影響や対処法、回復について学びました。ガスライターの特徴は、「常に自分が100%正しいと考える」「明らかに事実なのにそれを否定する」「被害者の決断や考え方を常に否定する」「被害者の家族や友人のことを悪く言う」「自分の気に入らないことを都合よく『忘れて』しまう」「相手の感情を否定する」—などです。

ガスライティングの被害者は、いつも自分のことを2番目に考えるようになります。簡単なことを自分で決められなくなり、自尊心が下がり、自分に自信が持ちづらくなり、睡眠障害や抑うつ状態が起こりやすくなります。

「私の感情は私のモノ！」です。「自分が悪いと思っていない人は、変わらない」のです。ですから、被害からの回復として、「ガスライターから離れる」「支援を求める」「反省をするのではなく、自分がうまくできたことを挙げてみる」—などがあります。



▲講師の嘉手納 美音さん

身体的な暴力と違い、精神的・心理的暴力は外からは見えづらく、しかし被害者に与えるダメージは大きいのです。ガスライティングという言葉を知ることによって、見えづらく暴力を可視化することができます。暴力の形態は幅広いという理解をさらに広め、今後、ガスライティングという暴力についての予防教育が必要だと知りました。

講師の嘉手納さんが勤務していた「ラスベガス・レイブ・クライシス・センター」での被害者支援の経験などが活かされた、学び多き講義に元気をもらいました。

# 相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用してみませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談
- 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)

 **098-861-7515**

月～土 午前9時～12時/午後1時～5時

## 「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。

### 性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。

### 周辺地図



### 駐車場のご利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の「ナハメカルパーキング」は有料です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

### ☆なは女性センター利用者の一部免除料金

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間までごとに	100円
※利用時間が1時間に満たない場合は1時間として計算。	

## 那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録

「那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録」は、市長がパートナーシップ・ファミリーシップの関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、「登録証明書」及び「登録証明カード」を交付するものです。

登録数 **49** 組

2022年12月15日現在

\*これまでに登録された方へも「登録証明カード」の交付ができます。

■「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取り組みです。登録によって何らかの法律上の効果(相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

■お問い合わせ・申請の予約

TEL. **098-951-3203** ◆月～金:午前9時～午後5時

\* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始(12/29～1/3)を除く

## レインボー交流会の開催について

「交流の場がほしい」「性の多様性について語りたい」といった声から生まれた誰でも参加できる交流会です。

開催日時: 2023年1月21日(土) 午後2時～4時

場所: なは女性センター(なは市民協働プラザ1階)

主催: 市民団体てぃーだあみ

メール: tiidaami.okinawa@gmail.com

※「レインボー交流会okinawa」で検索すると、フェイスブックで最新情報を確認できます。



## with you おきなわ

沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター

はやくワンストップ



**#8891**

24時間  
365日



※繋がらない場合は、098-975-0166へ

性暴力の被害にあわれた方の意思を尊重しながら、医療的支援を含めた必要な支援を行っています。24時間365日体制で相談を受け付けていますので、いつでも相談できます。

### ◆なは女性センター講座について

\*受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、申込みQRコードでお申し込みください。また手話通訳、一時保育(現在休止中)の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

### お問い合わせ

那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)

TEL. 098-951-3203 FAX. 098-951-3204

Email: s-heidan002@city.naha.lg.jp

### 開館時間

月～金: 午前9時～午後9時

土曜日: 午前9時～午後5時

### 休館日

年末年始(12/29～1/3)

日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)

### 【年末年始業務のご案内】

12/28(水)は、午後6時で閉館いたします。

12/29(木)～1/3(火)までの年末年始は、休館となります。



なは女性センター  
メール



なは女性センター  
ホームページ



Facebook